

【八木友一先生抄録】

最新デジタル事情とその対応について考える

歯科業界における CAD/CAM は機械や材料の進歩により時代の変化と共に大きく変わってきました。また、今年は IDS2023 が 3 月 14 日～18 日にドイツのケルンにて国際デンタルショーが開催されました。60 ヶ国 1,788 社が出展し、来場者は 162 ヶ国約 120,000 人が来場。世界の最新機器や情報が集まる場所として年々注目され、今年は更なる進化を遂げた機械や材料などが発表されました。

日本においても、多くの製品が市場へとリリースされ、特に近年では、IOS、3D プリンターなどの影響が大きいかと思えます。そのため、今では数十社の CAD/CAM 機械が存在し、さらに新しいメーカーからもリリースが予定されており、そのすべてのシステムを把握することは非常に困難といえます。

また、デジタル機器の普及に伴い、軟組織データ、硬組織データ、歯列データ、顔貌データ、模型データ、設計データなどが歯科医師、歯科技工士との間で交わされ、瞬時に情報を共有することが可能となり格段に利便性が向上されました。しかし、その一方で、データを取得するときの術者技術、機械の性能、環境等の様々な因子によってデータのクオリティは変化をしております。そこで今回はデータクオリティの見極め方や処理方法、実際のデータを使用したワークフローをご説明させていただきます。

後半では、IDS でのトレンドでもあったデジタルデンチャーについて、実際のワークフローをご紹介します。